

一、筑波大学哲学・思想学会会長及び評議員の選出

○平成十九年四月二十一日(土)に開催された第一回評議員会において、互選により、新会長に山中弘氏が選出された。

○学会規約にもとづいて、山中会長の推薦により、次の六名が会長推薦の評議員に選出された(評議員選挙により、二十五号記載の十四名が既選出)。

岡田道程、鬼界彰夫、久保 徹、塩尻和子、津城寛文、渡辺 学

(五十首順、敬称略)

二、評議員会の開催

平成十九年四月二十一日(土)、第一回評議員会が筑波大学人文・社会学系棟八階会議室において開催された。

○平成十九年度の活動方針が審議された。

○審議内容のうち、会長の選出に関しては一に記した通りである。

○編集委員に、伊藤 益、小野 基、鬼界彰夫、久保 徹、桑原直己、保呂篤彦の各

氏が委嘱された。

○幹事に、馬場智理氏が委嘱された。

平成十九年十月二十七日(土)、第二回評議員会が筑波大学人文・社会学系棟八階教員談話室において開催された。

○幹事に、今井信治、吉田真哉、和久 希の各氏が委嘱された。

三、第二十八回学術大会の開催

筑波大学哲学・思想学会第二十八回学術大会は、平成十九年十月二十七日(土)、筑波大学人文・社会学系棟一階

大会議室および同二階小会議室を会場として開催され、以下の研究発表、公開講演および総会が行われた。

〔研究発表〕

第一会場

1 キェルケゴールの信仰観についての一考察

―「反省のあとの直接性」とは何か― 鈴木祐丞

2 カントとルソー再考 近藤里奈

3 キルケゴールにおける「弾力性」の思想 馬場智理

4 「有への問い」の成立過程についての一

考察

―ハイデッガーにおけるアリストテレスと現象学― 岡田道程

5 ポストモダンにおける公共性の問題 五十嵐沙千子

第二会場

6 CMC空間におけるリアリティ構成 ―多元的現実論を手がかりに― 今井信治

7 尊王攘夷思想 ―水戸学から吉田松陰へ― 張 惟綵

8 懐疑論の問題とその解決 江口貴将

〔公開講演〕 日本発の哲学―その可能性をめぐって 末木文美士 氏

〔総会〕 〇活動報告 上井裕人幹事より、平成十八年度の活動報告がなされ、承認された。

〇会計報告 土井裕人幹事より、別表の通り平成十八年度会計報告(平成十八年四月一日〜平成十九年三月三十一日)がなされ、承認された。

〇会計監査員の選出 井川義次、五十嵐沙千子の両氏が会計監査員に選出された。

〇会計監査員の選出 井川義次、五十嵐沙千子の両氏が会計監査員に選出された。

四、編集委員会の開催

『哲学・思想論叢』第二十六号の第一回編集委員会が五月十六日(水)筑波大学人文・社会学系棟八階教員談話室において開催された。

○編集委員長に伊藤益氏が選出された。

○第二十六号の編集方針・日程等が検討された。

第二回編集委員会が九月十九日(水)に第一回と同じ場所で開催された。

○第二十八回学術大会研究発表者の選考が行われた。

○投稿論文の審査について検討された。

第三回編集委員会が十月十七日(水)に前回と同じ場所で開催された。

○投稿論文が審査された。

五、会員異動

○新入会員 風見遼佑、佐藤雅将、小谷俊博、天田顕徳、武藤亮飛、山田庄太郎、堀内俊郎

○退会会員 吉久勝美(逝去)、井口有子、渋谷紀雄、平山健生、村上太吾、望月幹巳、永上肆朗

(平成十九年十二月三十日 上井裕人記)

筑波大学哲学・思想学会平成18年度会計報告

(平成18年4月1日～平成19年3月31日) 会計担当幹事 上井裕人

収 入	支 出
前年度繰越金	機関誌作成費
1,731,966	371,070
利子	通信費
37	94,520
学会費	アルバイト代
936,000	143,000
抜刷代金(立替分)	大会開催費
20,160	83,207
	評議員会開催費
	58,790
	事務用品代
	21,280
	次年度繰越金
	1,916,296
計	計
2,688,163	2,688,163

『哲学・思想論叢』

第二十七号原稿募集

・原稿締切日

平成二十年九月三日(水)

・左記論文執筆規定をご参照の上

ご寄稿下さい。